

ASHIGIN WEALTH REPORT

2023.9.29
VOL. 16



富裕層の間で密かなブーム【ワイン投資】

新たな投資先として密かなブームになっている「ワイン投資」。今回はそのワイン投資の基本から、メリット・デメリット、さらにはワイン投資の方法について紹介していきます。

1. ワイン投資とは

(1) ワイン投資の特長

ワイン投資とは、資産価値の増加を目的として高級ワインを購入・保管する投資手法の一つです。時間をかけてワインが熟成することで、その価値が高まります。金融緩和の影響でインフレとなり、モノの値段が上昇する一方で、相対的に現金の価値は目減りしています。金などの実物資産（モノ）の価値は上昇しており、ワインも実物資産としての価値を有しているため、富裕層を中心に投資対象として

注目しています。

投資対象となるのは、「ファインワイン」と呼ばれる高級熟成ワインです。

(2) ワイン投資の歴史

ワイン投資の歴史は古く、ヨーロッパを中心に400年以上前から行われてきました。近年ではアジア市場も活発化し、中国や日本でもワイン投資がブームとなっています。新興国においても、経済成長を背景に富裕層が増加し、高級熟成ワインへの関心が増すと共に、投資対象としての需要も高まっています。

(3) ワイン投資の成功例

誰もが一度は耳にしたことがあるロマネ・コンティは、40年程前、当時の価格で5万円程度でしたが、現在は安目のヴィンテージでも当時の10倍以上の価格になっています。ファインワインの過去30年の利回りは年率13%程度と言われています。30年前の長期金利が4%程度であったことを考えると、かなり高いと言えるでしょう。

2. ワイン投資のメリットとデメリット

メリット	
資産価値の安定性	高級ワインの価格は、株式や不動産などに比べ、価格変動の影響が少ない。
価格の上昇	希少性の高いワインは、時間が経ち熟成が増すほど価格が上昇しやすい。不動産や絵画にも希少性はあるものの、ワインのように熟成することは無い。
実物資産	ワインは実物資産なので、一般的にインフレに強い。
自身で楽しむ	投資対象とするだけでなく、自身で飲み楽しむこともできる。

デメリット	
保管コスト	適切な環境で保管するための設備、費用が必要。
為替リスク	ワイン投資は欧米で盛んに行われており、ユーロ・米ドル建てでの取引が多い為、為替リスクが発生する。
短期投資に不向き	高級熟成ワインの価格は長期的に上昇する可能性があるが、市場のトレンドや銘柄評価を正しく判断するには専門知識が必要。売買のタイミングを誤ると損失を被る可能性があり、短期の投資対象としては不向き。

3. ワイン投資の方法

(1)インポーターからの買い付け

個人が店舗でワインを購入し、適切な環境で熟成させることができたとしても、それを証明することはほぼ不可能です。そこでワインの購入、保管、売却を一手に引き受けてくれる事業者「ワインインポーター」に依頼するのが良いでしょう。保管料はかかりますが、保管料には保管時の破損に備えた保険料も含まれている場合もあります。

(2)オークション取引

もう少し気楽にワイン投資をしたい場合は、オークションサイトや専門のワインオークションで高級ワインを購入すると良いでしょう。希少性の高いワインを手に入れることは難しいですが、ワインの知識に自信があり、自らの目



で見極めて購入したい場合などに向いています。インターネットオークションだけでなく、実際に会場開催されるオークションもありますので、勉強も兼ねて参加するのも良いかもしれません。

(3)ワインファンド

ワインの知識が少ない場合や、手間をかけずに投資を始めたい場合は、ワイン投資専

用のファンドを利用すると良いでしょう。投資信託と同じく、投資家から集めた資金を使って、プロが選んだ“複数の”ワインに投資することで、リスクを分散させることができます。全てお任せで少額から始められるメリットがありますが、売買手数料や保管手数料などが必要となります。

ワイン投資は、資産の多角化と楽しみを両立させることが可能です。リスクはありますが、ワインは金などと同じく「実物資産」です。そのためインフレ対策としても有効な投資対象であると考えられます。日本ではまだまだこれから成長が期待できる市場ですので、興味のある方は、まずは少額から検討されると良いでしょう。

本レポートは情報の提供を目的として足利銀行が作成したものです。当資料は情報の提供を目的として作成したものであり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではありません。本レポート中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。